

Vol.11  
2012 SPRING

# ISSUNAGU

[繋ぐ]

和紙の柔らかな透過光と、  
竹骨の機能美が織りなす  
京和傘の魅力。

Appeal of traditional paper products in Japan.

# 受け継がれる 日本の「紙ワザ」。

# 京和傘

伝統と革新を支える徹底した機能美

雨傘として使われる番傘、蛇の目傘、そして日傘。都として長く栄えてきた京都では、古くから和傘が使われてきました。和傘は厳しい審美眼を持つ京都の人々に使われるなかで、過度な装飾を排したシンプルさと上品さを持つ京和傘として発展してきました。その後、衰退が危ぶまれたものの、近年、その高い技術に対する評価が改めて見直されつつあります。伝統文化として守りに入るのではなく、美しい特性をそのままに、新たな展開を見せる京和傘。その力強い魅力に迫ります。

“TSUNAGU” has RENEWED!

紙が持つ新たな価値や紙文化の豊かさに触れていただくことを目的にみなさまにお届けして参りました「TSUNAGU」は、今号からリニューアル。創造力や知的好奇心を刺激する9つのテーマを通じて、よりいっそう紙の魅力、新たな感動をお伝えして参ります。

愛でる

02 「KAMI-WAZA 紙ワザ」  
京和傘に息づく  
匠の想いに触れる。

作る

06 「PAPERCRAFT on the DESK」  
丹波博士監修の  
紙ひこうきを作ってみよう。

辿る

08 「紙育(カミイク)」  
紙ひこうきは  
ものづくりの原点。

先を

09 「EDGE of PAPER」  
紙の“先端”に  
フォーカス。

伝える

10 「紙が紡ぎ出すものがたり」  
向田邦子さんの  
『字のないはがき』。

深める

11 「KPP HEADLINE」  
KPPの最新ニュースを  
キャッチアップ。

出会う

13 「KPP人物図鑑」  
大阪支店キーマンの  
素顔に迫る。

広げる

14 「PAPER TRIVIA」  
NZ教会再生に挑む  
坂茂氏の取り組み。

感じる

16 「季節の一冊」  
春の美しさ、切なさに触れる  
珠玉のショートストーリー。



新しい道具よりも、古くから使い込まれたものの方が手になじみ、美しい作業が可能になる。日吉屋で現在使っている道具も、江戸時代から代々、職人が使い続けてきたもの。



和傘の骨は、1本の竹を36〜75本に割ったもの。竹骨職人が細かく割き、割いた順番通りに組み立てることでびったりと骨が揃い、閉じたときに1本の竹のようになる。



空気が乾燥するとのが乾いてしまうため、夏も冬も冷暖房をほとんど使用しない引き締まった空間で、細やかな作業が行われている。



和紙は繊維が長く丈夫な、楮(こうぞ)100%のものを使用。繊維が長いとりの水で紙がのび、乾燥によって縮むため、細かく微調整を加えながら作業が進められる。



## 京の情緒を豊かに伝え 愛され続ける伝統工芸品

どこまでも精密なシンメトリーを描く竹製の骨と、やわらかく光を透す色あざやかな和紙の美しさ。日常生活で使用する機会はほとんどなくなつたものの、この伝統技術に触れた誰もが目を奪われる。傘の歴史は平安時代以前、貴人の日よけや魔除け、権威の象徴として中国から伝わった。当時は、開閉はできず開いたままで使用していたが、安土桃山時代に開閉できるものが誕生。祭礼や茶道などの儀礼、歌舞伎や舞踊などの伝統芸能の発展とともに、美しい意匠を凝らした工芸品となった。現在のように雨をしのぐ日用品として普及したのは江戸時代中期以降である。

最盛期には街という街にあった和傘店だが、現在は全国に10軒ほど。量産できて安価な洋傘にその座を奪われ、伝統文化が息づ

く京都市内でも、京和傘の店は日吉屋1軒のみとなった。この日吉屋が、衰退していた伝統技術に新たな息吹をもたらし、再び世間の注目を浴びることとなる。和傘の魅力。それははっとするような機能美にある。この美しさを支えるのが、精緻な骨組みと美しい和紙である。「日本中の和紙の工房をまわり、最も和傘に適した和紙を探しました。現在は用途に応じて複数の仕入れ先に注文しています」と5代目当主の西堀耕太郎さんは語る。

## 伝統技術の先に見つけた 京和傘の可能性

西堀さんと和傘との出会いは、当時交際していた奥様の実家を訪れたときのことだった。このときすでに日吉屋は廃業が決まっていたのだが、西堀さんはそこで初めて目にした番傘の美しさ高い技



## 西堀 耕太郎さん

株式会社 日吉屋 5代目当主

和歌山県出身。江戸時代後期に創業し、百余年の歴史を持つ和傘工房「日吉屋」の5代目。婚約者であった奥様との出会いから、廃業が決まっていた日吉屋を2004年に継承する。和傘の制作・文化財の修復から、伝統技術を生かした革新的な製品開発まで、幅広く活動し国内外から高い評価を得ている。

## 京和傘「日吉屋」

■住所 京都市上京区寺之内通堀川東入百々町546  
■アクセス JR「京都駅」、阪急電鉄「四条大宮駅」より市バス利用、「堀川寺ノ内」下車、徒歩1分／京都市営地下鉄烏丸線「今出川駅」下車、徒歩15分  
■TEL 075-441-6644  
■HP <http://www.wagasa.com/>

術に魅せられ、跡を継ぐことを決意「きれいでしよう。このような伝統技術を途絶えさせてはもったいない。売れないのは和傘の良さが世の中に伝わっていないだけで、この美しさをもっと多くの人に知ってもらえれば必ず売れるようになる」。こうして西堀さんの新たな挑戦がはじまった。

## 伝統を継承するために、 徹底的に技術をたたき込む

店を継ぐといっても、西堀さんは当時和歌山県に住んでおり、市の職員として観光課に勤めていた。京都に通えるのは週末のみ。毎週末に車で4時間かけて通い、4代目の義母や職人さんから手ほどきを受けながら、作業の様子をビデオに録画。平日はこのビデオを見て練習するという日々が続いた。「伝統技術ですからマニュアルもありませんし、この道60年、70年の職人さんが丁寧に教えてくれるわけでもありません。大変でしたが、面白さの方が勝っていましたね」。その後、結婚と同時に日吉屋を継承。茶道表・裏両千家や宮内庁御用達の日吉屋があたりらしく生まれかわった瞬間である。

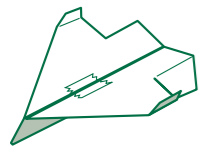
## 選び抜いた素材と伝統の技術が 繊細で丈夫な京和傘をつくる

「和傘って紙でできているから雨のとき

は使えないと思っていた」という声を時折聞く、という西堀さん。もちろん京和傘は祭礼や茶道、歌舞伎や舞踊だけでなく、雨傘としても使われる。これを実現するのは選び抜いた素材と、伝承されてきた技術。「和傘には和紙を使いますが、どんな和紙でも良いわけではありません。美しさと強さを兼ね備えた繊維の長い楮(こうぞ)100%のものが適しています」。日吉屋では現在、これらの条件を満たすものとして、福井県の越前和紙や富山県の五箇山和紙、岐阜県的美濃和紙を採用している。

## 道具へのこだわり、 「紙」へのこだわり

和紙は手で漉くため厚みにムラが出やすいものだが、和傘に使用する場合は1本に何枚もの和紙を継いで張るため、厚さや色合いが均一でなければならぬ。また傘は雨に濡れるものであり、漉いたあとで和紙を染めるのではなく、先に染色したものを漉いて使用する。白い状態の和紙と違い、繊維はもろろん溶液にも色がついているため、手の感覚だけで均一に漉く技術が必要とされる。「この手漉き技術を持つ人はなかなかいないため、伝統工芸士や人間国宝と呼ばれる方にお願ひしています」。この和紙に亜麻仁油を塗ることで、初めて水をはじく傘となる。



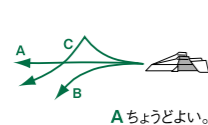
# 紙と触れ合い、モノを作る 「PAPERCRAFT on the DESK」



## 飛ばし方

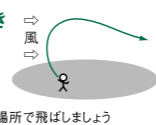
### 部屋の中で飛ばす場合

小さい三角の部分を持ち、  
ダーツを投げるように、  
水平に押し出す。



### 外で飛ばすとき

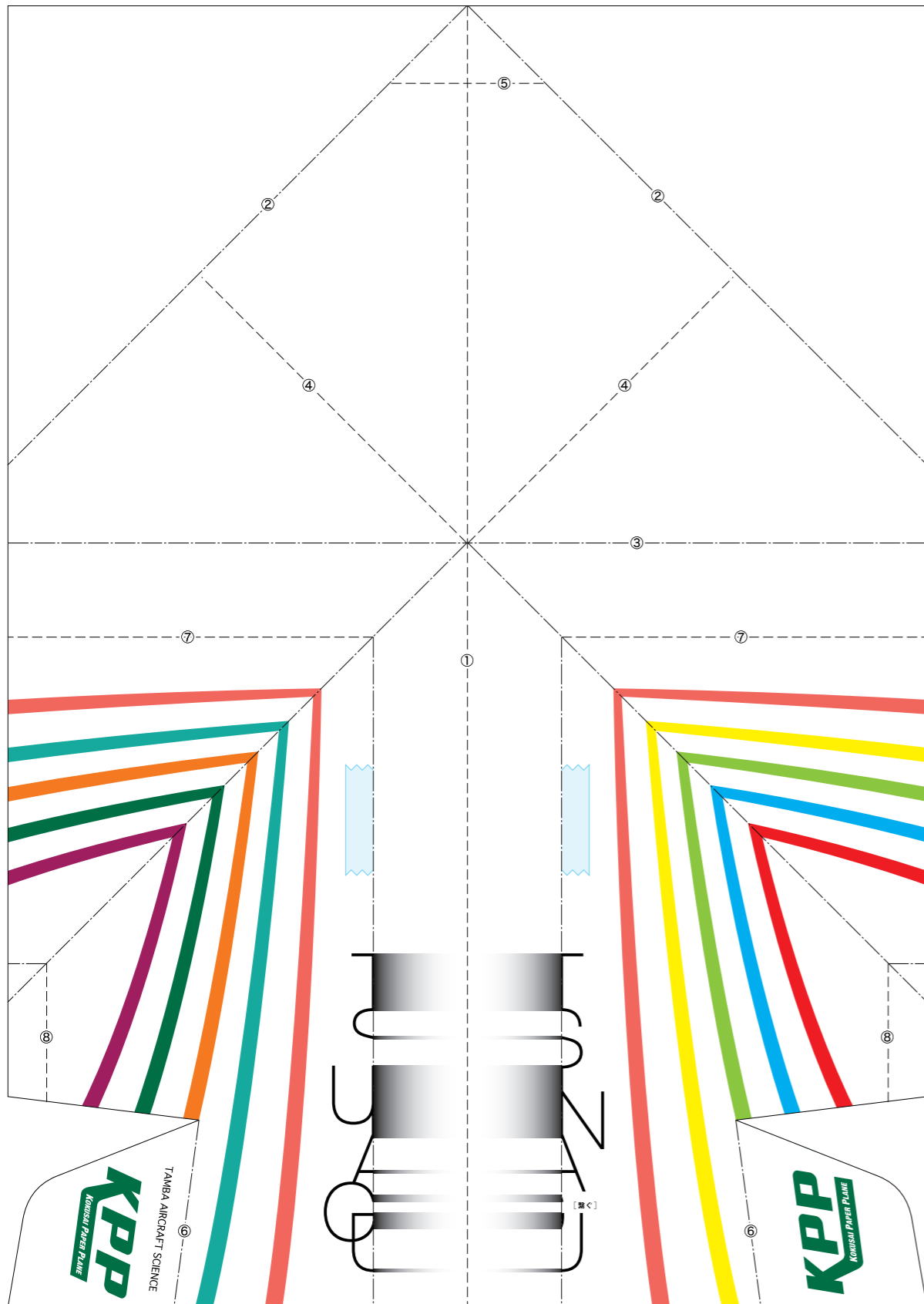
風上に向け、  
斜め上に投げる。



※車の通らない広い場所で飛ばしましょう

Bの場合は、尾翼の  
後ろのへりを2~3mm  
外側にひねる。  
Cの場合は、上の図とは逆に、  
後ろのへりを内側にひねる。

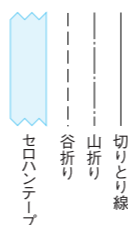
A ちょうどよい。



「丹波博士の 工作・実験 紙飛行機教室」 <http://www.tamba-jun.com/>

## 丹波純氏設計による「紙ひこうき」

この紙ひこうきは、工学博士であり、工作イベント、テレビ出演等を通して、紙ひこうきの魅力を広める活動をされている丹波純さん設計によるものです。本誌を切り取って作るのも、これを参考にA4紙で作るのもオッケー。飛ばさない時は、デスクまわりのインテリアとしても楽しんでください。



竹骨と和紙の接着には、タピオカ粉を溶いた手作りののりを使用。時間がかかる作業なので速乾性がなく、乾くと半透明になるものを使用。



傘骨の本数に合わせて溝が彫られているロクロ。傘によって骨の数は異なるため、専門の職人がオーダーメイドで制作する。



ロクロに竹骨を1本ずつ差し込み、口ウ引きした木綿糸で繋ぐことで開閉できる仕組み。



防水のため、亜麻仁油を温めて塗る。環境にもやさしいこれらの油は乾くとさらりとした感触に仕上がるといふ。油をひくと色が沈むため、明るい色の和紙を使用する。



和紙を張り終え乾燥させたのち、丁寧に筋をつけ和紙を骨に沿わせていく。この細やかな作業によって、和紙が内側に美しく折り畳まれる。

## 和傘の域を飛び越え、活躍する老舗ベンチャー

ふだん使いの雨傘としてだけでなく、京和傘の良さを身近に感じてほしいという願いから、西堀さんはデザイナー陣とタッグを組み、折り畳めるという和傘の特性を取り入れた和紙の照明器具を開発。これをきっかけに、さまざまな分野とコラボレーションして新たな商品を生みだしてきた。「自社だけで作ろうとすると、自分の思い込みにとらわれてしまっって、視野が狭くなってしまふ。多くの人と意見交換することで、誰もが使いやすい商品が生まれるのです」。

そんな西堀氏は、ジャンルの異なる業界からのオファーにも間口を広げている。「できないと言ふのは簡単ですし、実際に始めてみると大変なこともあります。が、本当にできないことはあまりない、というのがチャレンジしてきた感想です。パリコレで発表する桂由美さんとのドレスや建築家の隈研吾さんとの災害時建築など、多くのプロフェッショナルの方々と繋がることによって、思いもしなかった形状のものが生まれる。それが受け入れられ、評価される喜びはなにものにも代え難い宝ですね」。まだ誰もやっていないことに挑戦し、革新を繰り返すことで多くの人に愛される商品を開発したいと話す西堀さんの視野は世界にまで広がっている。



## あたらしくて、なつかしい。京和傘の機能美を現代の生活シーンに

「革新を繰り返すことで、伝統になる」と話す西堀さん。和傘の需要は限られているため、現代生活のなかで活用できるものとして考案したのが、和傘の構造を生かした照明「古都里-KOTORI-」である。京和傘を太陽

にかざしたときのやさしい光と竹が織りなす幾何学的な美しさを日常のシーンでも味わってほしいという思いから誕生した古都里は、和傘を応用した構造なので軽く、コンパクトな筒状に畳めるのも愛らしい。デザイナーとのコラボレーションにより京和傘の機能美を最大限に生かしたことが評価され、平成18年の発売とともに、国内外のデザイン賞を数多く受賞。海外からも高い評価を得ている。

作り方は次ページを参照



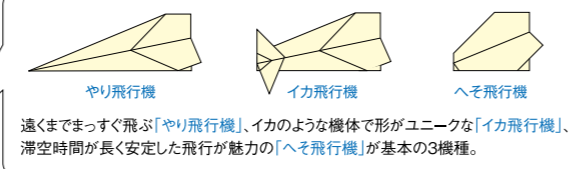
未来に遺すべき“紙文化”  
「紙育 kami-iku」



写真提供：アフロ

今回のテーマ

# 紙ひこうき



手や脳の発達にも効果あり!?  
紙ひこうきは、ものづくりの原点。

「お母さん、いらぬいチラシちょうだい」。子どもの頃、母親から要らなくなった新聞の折り込みチラシをもらって、紙ひこうき作りで夢中になった方も多くいらっしゃるのではないでしょうか。

そんな紙ひこうきも、近年、作ったことのない子どもが増えてきているとか。約20年にわたり、親子を対象とした紙ひこうき教室を続けてきた丹波純さんは、子どもたちの変化を危惧されています。「近年の子どもの間では、テレビゲームなど、より刺激的なものを使った遊びが主流です。しかし、紙ひこうきの作り方を教えてあげると夢中になって楽しんでくれる。それは教える機会を持たない大人の責任かもしれませんね。紙ひこうきの作り方を教えるのは、何もお父さんだけの役割ではありません。「お父さんは今も昔も忙しいもので、誰が教えてくれたか」というと、おじいちゃんや近所のおじさんだっただけです。紙ひこうきは、教える人を限定しない点も利点ですね（丹波さん）。

また、紙ひこうき作りには、「子どもの発達にも大きな効果があるはず。ちゃんと角をそろえて、シワにならないように折る。紙ひこうき作りは、手先を器用にしたり、どう折ったらより遠くまで飛ぶかを考えるなど、ものづくりの土台となる要素が詰まった遊びです。それが日本のものづくりの原点なのです」（丹波さん）。

「ミニエーション」を深めると同時に、「コストをかけずに楽しめる紙ひこうき。週末は近くの公園に出かけて、久しぶりにお子さまと一緒に紙ひこうきを飛ばしてみませんか？

## 作り方

- 01 切りとり線にそって、ていねいに切り抜きます。
  - 02 折り線①で半分に折ります。
  - 03 折り線②で三角に折ります。
  - 04 反対側も折ります。
  - 05 中心線から開き、折り線③を折ります。
  - 06 折り線④で三角に折ります。
  - 07 折り線⑤で小さな三角を折ります。
  - 08 中心線で半分に折ります。
  - 09 折り線⑥を折り、すじをつけてから開きます。反対側の折り線⑥も折って開きます。
  - 10 折り線⑦でつばさを折ります。反対側も折り、つばさを広げます。
  - 11 折り線⑧を折り、つばさの両端を上げます。
  - 12 セロハンテープで、つばさが開かないようにとめます。
  - 13 折り線⑨の角度を調整します。
- 完成!
- 前から見たときのつばさの角度

- 切りとり線
- 山折り
- 谷折り
- セロハンテープ



©JUN TAMBA/PEP PLANNING

飛ばし方は前ページを参照▶

紙に秘められた "こころ" に触れる  
「紙が紡ぎ出すものがたり」

と、今なら電話やメールで簡単に伝えられるが、近況を伝え合う手段は手紙しかない時代。しかも不穏な戦時下には、また字も書けないような歳ごろの子ども

「元気にやつてるよ」  
「元気にやつてるよ」  
と、今なら電話やメールで簡単に伝えられるが、近況を伝え合う手段は手紙しかない時代。しかも不穏な戦時下には、また字も書けないような歳ごろの子ども

向田邦子さんの「字のないはがき」は、暴君と形容されるほどに厳格で、そして筆まめだった向田さんの父親とその手紙にまつわるエッセーだ。タイトルになっている「字のないはがき」を実際に書いたのは、向田さんの末の妹さん。終戦の年の四月に二年生になったばかりの、小さな女の子だ。

向田邦子さんの『字のないはがき』

第一回

忘れられない便り



と離れ離れに暮らさなければならぬ家族の気持ちは、想像に余りある。お父上は、祈るような気持ちではがきの一枚一枚に自分宛の住所と名前を書いたに違いない。

疎開先では、地元の婦人会がごちそうを用意して子どもたちを歓迎してくれたらしい。食生活も、東京よりはずっと恵まれているのだろう。そんな話を聞いてはいても、ご両親は娘からの直接の報告を待ち焦がれていた。

そして一週間が経つころ、初めてのはがきが届いた。そこには、赤鉛筆で紙からはみ出すほどの威勢のいい大きいマルが書いてあった。

たった二枚、大きなマルだけが書かれたはがき。そのマルの中の大きな空白に、ご両親は鉛筆を握っている娘の笑顔や、マルを書いている間中、娘の心の中に浮かんだであろうたくさんの言葉を見たに違いない。

「おとうさん、おかあさん、わたしはだいじょうぶ」  
それとも、  
「おいしいものをたべました」  
それとも、  
「わたしはげんきいっぱいだよ」

しかし、次の日からマルはどんどん小さくなっていく。

向田邦子

1929～1981年。脚本家、エッセイスト、小説家。脚本に、『だいの花』『時間ですよ』『寺内貴太郎一家』など。短編の連作『花の名前』『かわそ』『犬小屋』で、第83回直木賞を受賞。取材旅行中の台湾で飛行機事故により死去。『父の詫び状』『思い出トラップ』『あ・うん』など著書多数。

く。そして黒鉛筆の小さなマルが、ついにはバツになる。ご両親が手に取った小さなマルが書かれたはがきは、ひんやりと冷たく重たかったことだろう。それは一枚のはがきに精一杯に込められた、小さな女の子の心細さと涙だ。そしてついにはバツのはがきすら来なくなってしまう。

疎開先に行つて三ヶ月目にお母上が迎えに行くつと、妹さんは百日咳にかかっている、虱だらけの頭で三畳の布団部屋に寝かされていた。そしてその子がようやく家に帰ってきたとき、お父上は裸足で表へ飛び出して、痩せた娘の肩を抱いて、声を上げて泣いたという。

「私は父が、大人の男が声を立てて泣くのを初めて見た」と、向田さんは書いている。

たった二枚の小さな紙に、文字の代わりに書かれたマル。赤鉛筆の大きなマルや黒鉛筆の小さなマル、そしてバツ。嬉しい気持ち、がんばる気持ち、やさしい気持ち、切ない気持ち、そして悲しい気持ちが詰まった世界で一番シンプルな記号。それは離れ離れの家族をつなぐ、雄弁で、確かな重みをもつ絆の記号だったのだ。

紙の“先端”にフォーカス  
「EDGE of PAPER」

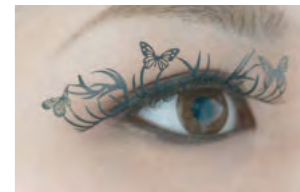
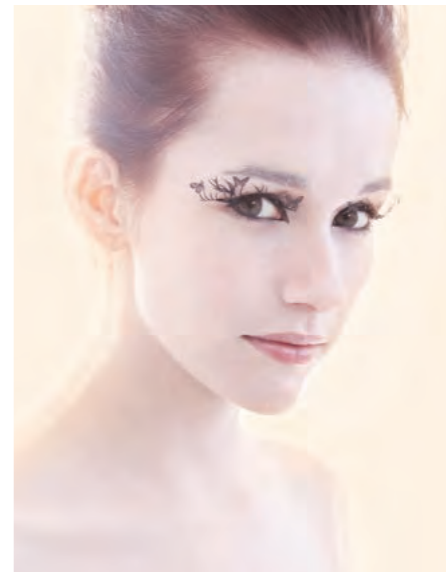
01 「PAPERSELF (ペーパーセルフ)」

発売：(株)ダリア <http://www.dalia.co.jp/> ※ご購入は、お近くのサロンへのお問い合わせ、またはインターネットにてご検索ください。

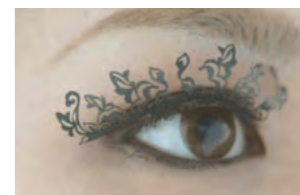
エコでキュートな  
新感覚の「紙製つけまつげ」

いま、ファッション誌やブログを中心に、流行に敏感な女性たちの注目を集めているのが、『PAPERSELF』という紙製のつけまつげ。中国の切り絵工芸「剪紙(せんし)」を応用したという繊細なデザインは、思わず目を奪われてしまうインパクト。一般的なつけまつげには合成繊維材料を使用しているものもありますが、同商品は森林環境に配慮したFSC認証紙を材料に使用。天然由来の紙製だから、肌にもやさしいスグレモノ。結婚式やパーティなどの華やかな場はもちろん、休日のおしゃれとしてもおすすめ。いつもと違ったグラマラス&キュートな目元を演出してみてください。

\*剪紙：せんし、jian zhi (ジエン・ジー)。中国の切り紙細工。代表的な民族芸術のひとつで、はさみを使って紙の上に花や動物、風景、人物などの図案を切り出す。(剪紙「フリー百科事典 ウィキペディア日本語版」より抜粋)



ディア&バタフライ



ビオネオン

※ラインナップには目のふち全体を彩るフルサイズ(全7種類)と、日常的に使用できるスマールサイズ(全6種類)があります。

ディア&バタフライ



スマール ピーチ ブラッサム



クラウン



ピーコック

02 「Premium C.D. NOTEBOOK」

[A.Silky 865 Premium] 全5種類 (A6判～A4判) / 735円～1,575円 [クリーム上質紙] A5判 945円 発売：アピカ(株) <http://www.apica.co.jp/>

最高の書き心地を楽しめる  
「紳士」のためのノート

学習帳などでなじみのアピカが、人気の大学ノート「C.D. NOTEBOOK」の発売25周年を記念して、ハイエンドモデルの「Premium C.D. NOTEBOOK」を発売しました。この商品のために開発したという高級紙。その特徴は、ペン先が滑るように進むスムーズな書き心地に加え、文字が際立って見えること。シンプルかつ重厚感のあるデザインも含め、「紳士なノート」というコピーも納得です。この春から何かを始めようと思われている紳士の皆さん、まずはノートからこだわってみては？



紳士なこだわり

- 1 表紙には、星屑のような煌めきが特徴のフランス製高級紙を使用。
- 2 本文用紙は、リッチな「シルク」と、伝統の「クリーム」の2種類を用意。
- 3 製本方法は、フラットに開いても書きやすい「糸かがり綴じ」を採用。

プレゼント

本誌同封のアンケートにご回答いただいた方の中から、抽選で30名様に「Premium C.D. NOTEBOOK」をプレゼントします。応募の詳細はアンケート用紙をご参照ください。なお応募締め切りは2012年5月末日(5月31日必着)です。

FINANCING

中国における事業拡大をめざし、  
製紙会社に出資

当社は、香港の森信紙業集團公司(サムソン社)の子会社であるMission Sky Group Ltd.(ミッションスカイ社)の発行済株式のうち22.3%を取得し、持分法適用関連会社としました。ミッションスカイ社は、中国山東省にて段ボール原紙を生産する遠通紙業(山東)有限公司(UPP-SD社)の持株会社です。

日本国内の紙需要が頭打ちのなか、中国では今後も板紙を中心に堅調な伸びが予想されます。稼働中の板紙製造事業に投資することで、中国国内における川上・川下を含めたスピーディーで幅広い事業展開が期待されます。



PUBLICITY WORK

社用の電気自動車「アイミーブ」が  
「ecomocar」に衣替え



電気自動車「アイミーブ」は、導入以来、走る広告塔として当社の環境に対する姿勢を社会のみならずお伝えする役割を果たしています。部門を問わず社員が利用できることもあり、近距離の外出を中心に活躍しています。この度、そのアイミーブがフィルムラッピングにより、

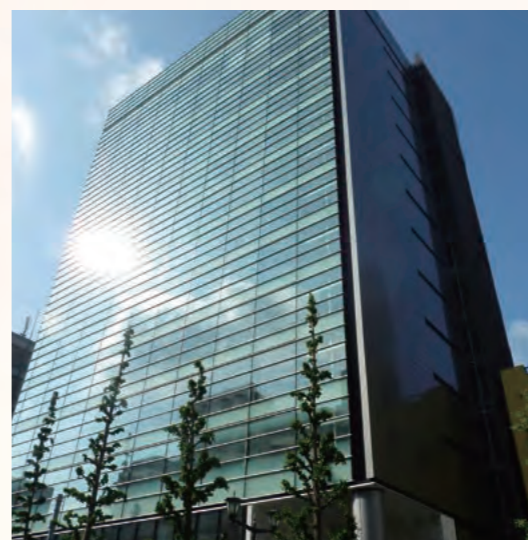
「ecomocar」に衣替えしました。

木目調のボディに古紙回収リサイクルポイントシステムのオリジナルキャラクター「ecomochan」が描かれた親しみやすいデザインになっています。今後も日常業務のほか、イベント時などに活用していきたいと思っております。



ENVIRONMENT

環境配慮型・高機能オフィスビル  
「KPP八重洲ビル」が本格始動

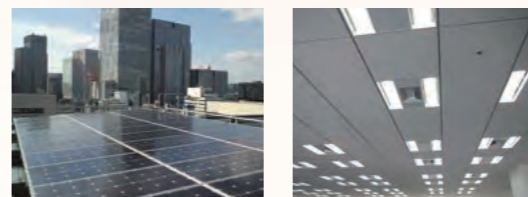


東京駅八重洲口から東へ徒歩6分、八重洲通りに面したガラス張りのビルがその姿を現したのは、昨年10月末のこと。地上13階、地下1階建ての賃貸用オフィスビル「KPP八重洲ビル」が竣工しました。

このビルの特徴は、随所に環境への配慮を取り入れた高機能オフィスビルである点です。2~13階の賃貸オフィスゾーンには、最新式のグリッド型LED照明を全面導入。照度センサーや人感センサーを組み込み自動調光することで、省資源・省CO2効果を引き上げています。そのほか、屋上の一部には太陽光パネルを44枚設置するなどして、節電だけでなく創電にも対応。最新式の空調システム、外断熱の強化などにより、CO2の32%削減<sup>※</sup>を実現しました。

環境への配慮を第一に考え、最新の省エネ機器を採用したテナントビルとして、注目を集めるKPP八重洲ビル。現在はすべてのテナントが決まり、順調なスタートを切っております。

※東京都の省エネルギー計算基準値比

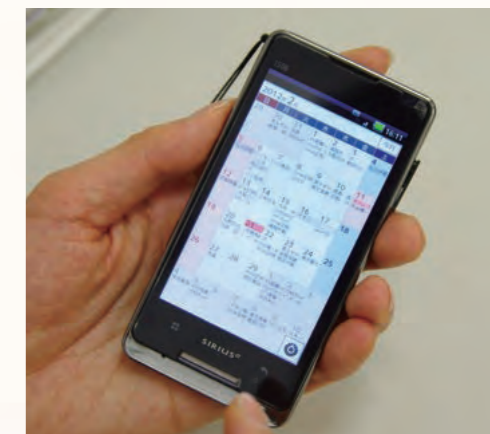


RATIONALITY

さらなる業務効率化をめざし、  
社用スマートフォンを導入

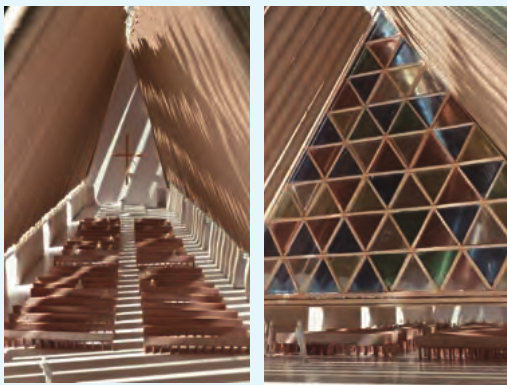
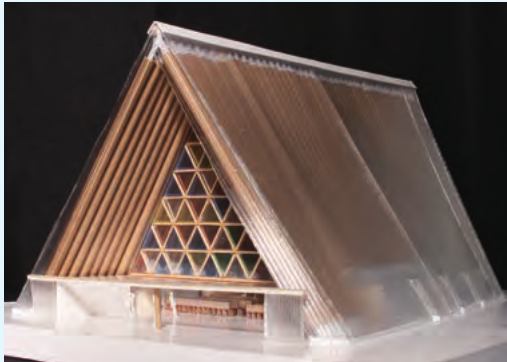
昨秋より営業職に対し、社用のスマートフォンを配布しました。外出時のメールチェック、ネット検索、ナビを始めとした様々なアプリなど、便利な機能が充実しています。従来、社内では固定電話、外出時には携帯電話と使い分けていましたが、スマートフォンに一本化することで、通信コストの削減にも繋がっています。

今後は、セキュリティ対策を徹底しつつ、さらに活用方法などを改善し、業務効率化を進めてまいります。



紙の持つ可能性・面白さ再発見  
「PAPER TRIVIA」

世界的建築家・坂<sup>ばん</sup>茂<sup>しげる</sup>氏が手がける  
「紙管の教会」(ニュージーランド)



オリジナルの幾何学的なデザインを生かした大聖堂の模型。700人収容可能で、教会としての機能のほか、イベント施設としての使用も視野に。

紙、木、竹といった有機的な素材を用いて優美な建築物を設計し、世界的な評価を得ている建築家・坂茂(ばんしげる)氏。フランスの国立美術文化センター分館など国家的プロジェクトを手がける一方、国内外を問わず大規模な災害が起こるたびに被災地に入り、建築家の立場から被災者の支援に取り組んでいます。そんな坂氏が現在手がけているプロジェクトのひとつが、ニュージーランドのクライストチャーチの大聖堂。昨年2月に発生した大地震によって壊滅的被害を受けた街のシンボルを、紙管を用いた建築で再生させ

る計画を進めているのです。設計案によると、大聖堂は高さ約24メートル。特徴的な三角形の屋根は、長さ17メートル、重さ約500キロある紙管を104本使い、テントのように組み合わせる構造で、紙管のすき間から内部に光が入る設計なのだそう。材質は紙といえども強度に問題はなく、現地の建築基準もクリア。10年以上使える耐久性もあるというから驚きです。紙管は、一般的な建材とは異なり現地調達が可能であり、しかも安価。断熱効果があるうえ、リサイクル可能であること



坂氏の活動は、東日本大震災の災害支援にも及んでいます。コンテナを利用した仮設住宅のほか、避難所の生活でプライバシーを確保できるよう設計された紙管を用いたパーティションは、じつに50カ所以上の避難所に設置されました。(写真は岩手県大槌高校の体育館)

も、被災地の救援施設に採用するきっかけになったということです。「紙」にこだわり、驚異的な行動力で被災地支援のために世界中を飛び回る坂氏。その創造性が生み出す新たな街のシンボルは、教会に集う人々にとって、明日への希望につながっていくに違いありません。

編集後記

リニューアルした『TSUNAGU』、楽しんでいただけましたでしょうか？今号より16ページに増え、発行回数も年4回の季刊になります。また当社のニュース、社員をご紹介するコーナーを設けたので、これまで以上に身近に感じていただけたかと思えます。

今号の取材で人生2度目の京都へ。冬の京都は寒いと聞いていましたが、東北生まれの私も耐えかねる程の底冷えでした。そんな中、完璧な京和傘を作るため暖房を使わず作業をしておられる西堀さん。匠の熱い魂を感じる事ができました。(MT)

伝統へのこだわり、子供の頃の思い出、最先端への驚嘆、感動の涙、最新のニュース、知識の幅、四季を綴る一冊……。『紙』を語ることで伝えたい思いがあり、『紙』を通して繋がる人がいる。紙の商社の広報誌に何ができるかを考えた時、『紙』の魅力を様々な切り口で紹介し、共に『紙』を感じることで、皆様と繋がりたいとの思いに至りました。これからは『紙』の価値を高めるという編集方針のもと、新生『TSUNAGU』を育ててまいります。(TK)



感じる

Kanji-ru

## 四季の美しさが目に浮かぶ 「季節の一冊」

何げない風景や瞬間に春を感じる  
珠玉のショートストーリー



### 『Presents』

角田光代(著) / 松尾たいこ(絵) / 双葉社文庫

プレゼント。愛のこもったもの、何げないもの。贈った本人が忘れていても、受け取った人の心に響くもの。人はそれをどんな思いで手渡し、どんな気持ちで受け取るのでしょうか。

角田光代さんの『Presents』は、プレゼントにまつわる12編のショートストーリー。一生のあいだに受け取るさまざまなプレゼントが、春の輝きをちりばめながら描かれています。

「名前」の主人公は、春に生まれたから春子という、ありふれた

名前。いよいよ子どもが生まれるというとき、病院にむかうタクシーで外の美しさに目を奪われた彼女は、自分を生むために同じく春の道を急いだであろう母親に思いを馳せる。それまで気づかなかった街にあふれる美しさに、まるごとの春を感じます。

ほかにも入学祝いのエピソード「ランドセル」や子どもが描いた家族の「絵」、死を迎える日の「涙」など、気づかなかつたものの中にも思いのこもった贈りものがあり、私たちはこんなにもたくさんプレゼントを受け取りながら生きているのだなと気づかされます。

12の「プレゼント」を包む本の装丁にも注目。まるでプレゼントの包装紙のよう。この本そのものが、揺らぎがちな春の心をやさしく包みこむ、プレゼントなのかもしれません。



輸送マイルージとCO2排出を抑え、地球温暖化に配慮したライスインキを使用しています。

エコプレス  
バインダー

針金・糊・加熱が不要な製本方法を採用し、リサイクルや怪我の危険へ配慮しています。



国際紙パルプ商事株式会社

KOKUSAI PULP&PAPER CO.,LTD.

〒104-0044 東京都中央区明石町6番24号

TEL (03) 3542-4111 (代)

URL <http://www.kppc.co.jp/>